

# 海自初の米艦防護

## 補給艦と合流、連携アピール

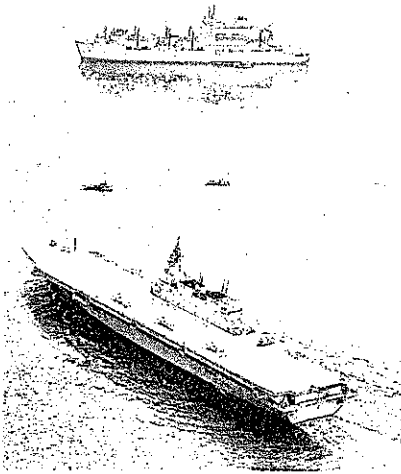
### 一体化加速に懸念も

海上自衛隊のヘリコプター搭載型護衛艦「いずも」☆NEWSの言葉は1日午後、房総半島沖で米海軍の補給艦と合流し、安全保障関連法に基づき米軍の艦艇を守る「武器等防護」を実施した。自衛隊が安保関連法の新任務に当たるのは初。緊迫する北朝鮮情勢をにらみ、日米の連携強化をアピールする狙いがある。憲法違反との指摘もあった安保法施行から1年余り、自衛隊が日本海に入った原子力空母カール・ビンソンと訓練を共にし、米艦防護にも取り組むなど、加速する一体化への懸念もある。

昨年3月末に施行された安の陸上自衛隊部隊に同11月、艦防護の実施で初めて実際の保法を巡っては、南スーダン「駆け付け警護」が付与され運用が始まった。国連平和維持活動(PKO)だが、実行されていない。米いずもは海自最大の艦艇

で、1日午前横須賀基地を出港した。周辺の警戒監視などの防護活動をしながら、2日間は太平洋を四国沖まで航行。防護を終えた後、シンガポールの国際艦艇式に参加する。米補給艦は北朝鮮の弾道ミサイル発射に備えて日本付近に展開中の米艦船や、カール・ビンソン周辺の船に燃料補給する可能性がある。岸田文雄外相は1日、訪問

横須賀市沖を航行する海上自衛隊の護衛艦「いずも」(手前)。奥は停泊中の米海軍補給艦。両艦は午後房総半島沖で合流した。1日午前10時43分(共同通信社ヘリカシ)



先のとルクメヌスタンで「日米同盟の抑止力、対応力が強固であることを示す」という意味で大変有意義だ」と述べた。カール・ビンソンは4月23日からフィリピン海で海自と共同訓練を開始。同29日に長崎県沖の日本海に入るまで、陣形を整える動きや通信訓練を繰り返した。空自のF15戦闘機も空母艦載機と戦闘訓練

を対象を米軍などの他国軍に拡大。平時や特定の国からの武力行使に至らないグリーン・事態の下で「日本の防衛に資する活動」に当たる他国軍が対象となり、主に米軍艦船の防護を想定している。武装集団などから攻撃を受けた際、自衛隊が武器使用を迫られる可能性もある。政府は武器等防護の運用指針で、武力行使と「線を画すため」現に戦艦が行われている海域「では行わない」とし、武器使用も極めて受動的かつ限定的な必要最小限のもの」と定めている。

# 目に見える支援演出

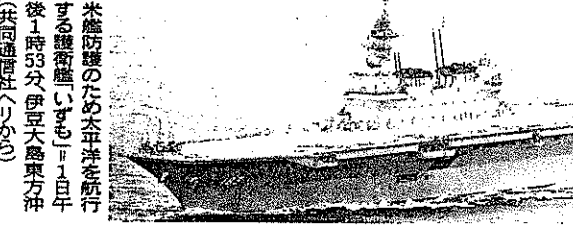
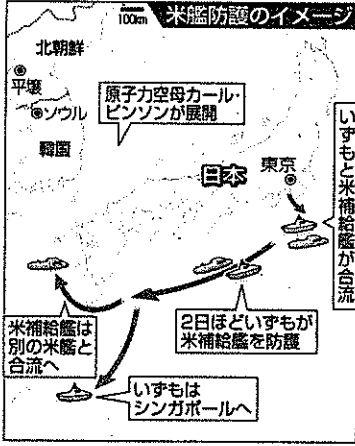
## 初の米艦防護

海上自衛隊が1日、安全保障関連法の米艦防護を初めて実施した。米国のための法律（防衛官幹部）とも指摘される本質が顕著に出た新任務で、米艦はさらなる支援拡大に期待する。日本政府は挑発を繰り返す北朝鮮にいらみを利かせ、沖縄県・尖閣諸島防衛の関与も明言したトランプ米政権に返礼を果した形だが、作戦行動への一体化は避けられそうにない。

【一面に本記】

# 表層深層

## 尖閣防衛への「返礼」



米艦防護のため太平洋を航行する護衛艦「いずも」。1日午後1時53分、伊豆大島東方沖（共同通信社ヘリカ）

▽インパクト

平らな甲板を持つ全長248メートルの巨艦が房総半島沖に姿を現した。神奈川県横須賀基地を出発した海自最大の「空母型」護衛艦「いずも」は、防護対象の米補給艦の近くで威容を見せながら、太平洋を進んだ。

「インパクト」重視だ。ある幹部自衛官は声を潜める。いずもは多数の哨戒ヘリを搭載できる中核艦だが、対空戦闘能力は高くない。防護任務に徹するのであればミサイル迎撃能力のあるイージス艦が適しているが、いずも1隻に絞られた。

日本政府は朝鮮半島情勢が

▽インパクト

緊迫する日本海側で防護を行わず、四国沖で任務を終える方針だ。「目に見える対米支援の実績」と、緊張回避を両立させる（政府関係者）思惑が透けて見える。

「全戦力で日本を防護する」。4月19日、米軍横須賀基地の原子力空母ロナルド・レーガン艦上で演説したペンス米副大統領は、弾道ミサイル発射を繰り返す北朝鮮を強くけん制。中国を念頭に、対日防衛義務を定めた日米安保条約第5条を尖閣諸島に適用すると明言し、日本の懸念に応えてみせた。

米側には、今回のような平

## 日本・中央アジア外相会合

### 「北」の核容認せず

声明採択

【アシガバート共同】岸田文雄外相は1日、トルクメニスタンの首都アシガバートで、同国を含む中央アジア4カ国との外相会合に出席した。北朝鮮の核実験やミサイル発射は「断固として容認できない」との認識を共有。核・ミサイル開発が「現実の脅威」となっている現状を訴

え、圧力強化へ同調を促した形だ。共同声明は、北朝鮮の核・ミサイル開発は「地域や国際社会の平和と安全に対する深刻な脅威」として、安保理決議を守り断固として要求するとし、日本人拉致問題解決の重要性も強調した。岸田氏は共同記者発表で、中央アジア側に関心が高い運輸・物流分野強化のため、既に決定した事業も含め、日本が約240億円の規模の支援を行っていることを表明した。

輸入コヒー豆から雑穀農薬厚生労働省は1日、コロンビア産コヒー豆から基準値を超える農薬が検出されたとして、食品衛生法に基づき検査命令を出した。輸入時に毎回検査が義務付けられる。問題のコヒー豆は輸入した企業が保管しており、流通していない。厚労省によると、三井物産が2月にコロンビアから輸入した生鮮コヒー豆を横浜検査所がモニタリング検査し、基準値（0.05ppm）の4倍に当たる0.20ppmの殺虫剤クロルピリホスが検出された。また、丸紅が3月に輸入した豆からも0.07ppmが検出された。コロンビア産コヒー豆は昨年1年間で7万1491トンの輸入実績がある。

変化であることも理解し、表

向き「日本が自ら決める」としたとの立場を堅持。世論の動向も注視し日米で実施を模索してきたが、米軍が原子力空母カール・ビンソンを日本海に派遣したことでタイミングが巡ってきた。

▽低いハードル

昨年3月施行の安保法の新任務は、対米支援色が濃いメニューが多い。昨年11月には「重要影響事態」を想定した初の日米訓練を沖縄周辺で実施。集団的自衛権行使の内容を含む訓練を来年実施する方向での調整も進む。

▽重要な意味を持つ艦艇の防護

重要な意味を持つ艦艇の防護も、米軍から求められるとみられる。その一つが潜水艦データを受取る「音響測定艦」。潜水艦の性能や動向は軍事機密で、測定艦は他国に譲がられるからだ。幹部は「米軍の本意の二重には別にある」と話し、実績ができたことで対象がさらに拡大する可能性を指摘。「このまま米軍との一体化が進めば、いずれ自衛隊が攻撃の標的になるリスクは否定できない」と話した。（ワシントン、東京共同）

ただ、初の任務に政府内には

はビビリした空気が漂った。1日午前の首相官邸。安倍晋三首相の到着に合わせて、谷内正太郎国家安全保障局長や外務、防衛両省の幹部が首相執務室に続々と集結。約15分間の会議は米艦防護の報告とみられるが、官邸を出た幹部の口は一律に堅く、首相や菅義偉官房長官らが国民向けに説明することもなか

取った。

▽重要な意味を持つ艦艇の防護

重要な意味を持つ艦艇の防護も、米軍から求められるとみられる。その一つが潜水艦データを受取る「音響測定艦」。潜水艦の性能や動向は軍事機密で、測定艦は他国に譲がられるからだ。幹部は「米軍の本意の二重には別にある」と話し、実績ができたことで対象がさらに拡大する可能性を指摘。「このまま米軍との一体化が進めば、いずれ自衛隊が攻撃の標的になるリスクは否定できない」と話した。（ワシントン、東京共同）

## 軍事的合理性ない

植村秀樹・流通経済大学教授（安全保障論）の語 軍事的合理性がなく、米国追従の安倍政権の姿勢を示すために行われた。米軍は自己完結できる組織力を持っており、本来なら自衛隊のサポートは必要ない。政権は北朝鮮と関係の深い中国やロシアに対し、政治的、外交的な働き掛けを強め問題の解決を目指すべきだ。

### 識者談話

## 同盟の深化に意義

川上高司・拓殖大海外事情研究所長（安全保障論）の語 北朝鮮の朝鮮人民軍創建85年の記念日（4月25日）などが終わり、弾道ミサイル危機は少し緩和された。次なる危機がいつ訪れるか分からない状況は続いており、今回の米艦防護の実施はそれを抑止する効果がある。核実験の抑止も期待でき、日米同盟の深化のために非常に意義がある。

護衛艦「いずも」が神奈川県の上  
自衛隊横須賀基地を出港し、反対  
の声を上げる市民団体のメンバ  
ー＝1日午前

# 米艦防護を初実施

# 「9条理念に反する」

安全保障関連法の施行から1年あまり、自衛隊の新任務、米艦防護」が1日、初めて実施され、市民団体の関係者からは「米国の戦争に加担する道筋ができる」「憲法の理念とかけ離れている」との批判が上がった。一方で、北朝鮮情勢が緊迫する状況での日米の連携強化に理解を示す声も聞かれた。

【1面に本記】



## 市民団体が批判 安保法を具体化

「直接的であろうと間接的であろうと、武力による『威嚇』であることは明白。憲法9条の理念に反する」。安保法に反対してきた「明日の自由を守る若手弁護士の会（あすわか）」の共同代表黒沢いづみさん(36)は憤った。

安保法を巡っては国会審議の過程から「自衛隊員が戦闘に巻き込まれる」「憲法に違反する」との指摘も相次いでいる。今回の任務での武器使用の可能性は現時点では高くないとみられるが、政府からの公式な説明はないままだ。

黒沢さんは、3日に憲法記念日が控える状況を踏まえ「憲法への国民の関心が高まる時期を選び、臨戦状態にあるかのような空気をつくって不安をおおるやり方は問題。冷静な議論を阻害し、民主主義ではあってはならないやり方」と話す。

午前10時ごろ、海自の護衛艦「いずも」が出港した横須賀基地近くには見物の人も含

め市民ら数十人が訪れた。

「米艦防護は自衛隊の専守防衛を破るもので、ある種の軍事行動だ」。抗議活動をしていた「ヨコスカ平和船団」のメンバー新倉裕史さん(69)は危機感を募らせる。「トリスリンク広島・呉・岩国」の世話人新田秀樹さん(54)は「安全な海域を航行するので実質的な意味はなく、安保法

の内容を具体化させたいだけ。こうやって米国の戦争に加担していくことになる」。一方、横須賀市の主婦(70)は「北朝鮮が何をするか分からず、はらはらしている。米」と一緒に対処しなければならず、協力には仕方がない。ただ、海自隊員が危険にさらされる可能性に触れ「家族は心配だろう」と気遣った。